

令和3年版 建築設備設計計算書作成の手引きの正誤表について
第1刷用正誤表

頁	設備	表題	書式番号	訂正箇所	誤	正
56	電灯設備・動力設備・電路	8-2電路計算書（分岐配線用）	様式 電-8-2	算出方法の解説 1. 電灯分岐（3）	・・・（基準p105）による。	・・・（基準p109）による。
61	電灯設備・動力設備・電路	9ケーブルラック計算書	様式 電-9	例1 電力用	（ケーブルの仕上り外径合計） 527.0 （ケーブルラックの必要寸法） 704.4	（ケーブルの仕上り外径合計） 565.0 （ケーブルラックの必要寸法） 750.0
188	通信・情報設備	20(b)テレビ共同受信設備計算書	様式 電-20-2	計算例2 増幅器～増幅器 機器 ⑦	分岐分配器 [dB] SH-C4（ 結合 損失）	分岐分配器 [dB] SH-C4（ 挿入 損失）
192	通信・情報設備	21(b)監視カメラ設備録画装置容量計算書	様式 電-21	算出方法の解説 2.（2）	1 フレーム当りのデータ量 [kB/f] ・ 1,024 [bit/kbit] ・ フレームレート [fps] ・ 録画時間 [s] [kB]	1 フレーム当りのデータ量 [kB/f] ・ 1,024 [(B/f) / (kB/f)] ・ フレームレート [fps] ・ 録画時間 [s] [B]
192	通信・情報設備	21(b)監視カメラ設備録画装置容量計算書	様式 電-21	算出方法の解説 2.（3）	デジタル記憶媒体に必要な容量 [kB] となる。	デジタル記憶媒体に必要な容量 [GB] となる。
209	空調設備	空調熱負荷計算	ガラス面日射面積率 (SG)の算定	最下行	SGは、x/b、y/hが負の場合は0	SGは、x/b、y/hが負の場合は0
224	空調設備	温熱源機器の算定	様式 機-015	負荷集計 熱交換器あり 厨房貯湯タンクの q ₃ の値	熱交換器を除く負荷 q ₃ 119.2	熱交換器を除く負荷 q ₃ 116.8
				温熱源機器定格出力 熱交換器ありの計算数値	H= (419+K2・K3・K4・ 119.2) = 599 q ₃ = 119.2 H= 599	H= (419+K2・K3・K4・ 116.8) = 595 q ₃ = 116.8 H= 595
				バーナーの燃料消費量の計算式	C=3,600× 599 /0.90×40,640≒59	C=3,600× 595 /0.90×40,640≒59
228	空調設備	熱附属機器の算定	様式 機-016-2	PB-1の計算の欄及び備考の数値	Q=2.0×1.60× 599 /60≒ 31.9 H= 599	Q=2.0×1.60× 595 /60≒ 31.7 H= 595
229	空調設備	同上	様式 機-016-3	THW-1の計算の欄及び備考の数値	V _R =2.0×1.60× 599 ≒ 1,917 H= 599	V _R =2.0×1.60× 595 ≒ 1,904 H= 595
				PV-1の計算の欄及び備考の数値	EDR=2.0×860× 538.2 /650≒ 1,424 q ₅ =419+ 119.2 = 538.2 EDR 1,424	EDR=2.0×860× 535.8 /650≒ 1,418 q ₅ =419+ 116.8 = 535.8 EDR 1,418
232	空調設備	煙突・煙道の算定	様式 機-017-1	標準単位排ガス量の「計算」	G _N =11.80+(1.2-1)× 11.2 =13.94	G _N =11.80+(1.2-1)× 10.71 =13.94

○

頁	設備	表題	書式番号	訂正箇所	誤	正
233	空調設備	煙突・煙道の算定	様式 機-017-2	煙突・煙道（煙突高さ、煙突断面積）の算定 「煙突の通風力」の「計算式」の上の囲い	煙突の高さとH _c [m]、煙道の断面積D _f (D _{fe})、D _c (D _{ce}) [mm]を仮定し、・・・	煙突の高さとH _c [m]、煙道の直径D _f (D _{fe})、D _c (D _{ce}) [m]を仮定し、・・・
233	空調設備	煙突・煙道の算定	様式 機-017-2	断面積 煙道部のA _f 計算	A _f = 1,718 / (3,600 × 5) ≒ 0.096	A _f = 1,718 / (3,600 × 5) ≒ 0.095
246	空調設備	空調機の算定	様式 機-022-4	形番選定（仮）の冷温水量、③冷却能力④加熱能力	冷温水量 110 、③冷却能力 73.2 、④加熱能力 82.5	冷温水量 124.2 、③冷却能力 86.7 、④加熱能力 92.7
				空調機の選定 風量比による補正值の計算数値	8,030 / 9,000 = 0.89	8,020 / 9,000 = 0.89
				空調機の選定 入口空気温度による補正值④冷却の数値及び計算	⊖ 冷却 1.12 計算 73.2 × 0.93 × 1.12 = 76.2	⊖ 冷却 1.13 計算 86.7 × 0.93 × 1.13 = 91.1
				空調機の選定 暖房計算	計算 82.5 × 0.91 × 1.08 = 81.1	計算 92.7 × 0.91 × 1.08 = 91.1
				判定の欄	8列 76.2 ≥ ① 8列 81.1 ≥ ②	8列 91.1 ≥ ① 8列 91.1 ≥ ②
259	空調設備	空調機の算定（湿り空気線図）	様式 機-025-2	線図の下の温度記号	t _c = 12.5	△t _c = 12.5
263	空調設備	パッケージ形空調機の算定方法	設計条件	1. (1)1行目	モデル建物2階の事務室Aを対象	モデル建物2階の事務室A系統を対象
271	空調設備	マルチパッケージ形空調機の算定	様式 機-029-3	最上部の吹出し部のページ	様式 機-027 (p. 265) による。	様式 機-027 (p. 267) による。
283	空調設備	ポンプの算定	様式 機-041	冷温水二次ポンプの記号	PCH- 2	PCH- 2-1
				PCD-1の揚程h、軸動力P _s 、電動機出力P _w の値	揚程h 23.1 、軸動力P _s 15.99 、電動機出力P _w 15.99	揚程h 23.2 、軸動力P _s 16.06 、電動機出力P _w 16.06
288	空調設備	配管（全揚程）の算定	様式 機-042	機器内圧力損失の吸収冷温水機P ₂ の値及び計、全揚程の値	吸収冷温水機P ₂ 111 計 205.9 全揚程 23.1	吸収冷温水機P ₂ 116 計 210.9 全揚程 23.6
320	給排水衛生設備	給排水衛生設備の計算例の設計基本条件	3. 給湯設備	(2)対象室（局所式）	瞬間式湯沸器： 貯湯湯沸器：	瞬間湯沸器： 貯湯式電気温水器：
			5. 消火設備	(1)消火方法	屋内消火栓：簡易操作性1号消火栓	屋内消火栓：易操作性1号消火栓
325	給排水衛生設備	28高置タンク方式の算定方式	図7-6	読み取り数値（摩擦抵抗）（推奨流速）	0.47 0.50 0.73 0.77 0.84 1.02 1.6 1.5 1.35	0.47 0.50 0.73 0.77 0.85 1.02 1.7 1.5 1.35

頁	設備	表題	書式番号	訂正箇所	誤	正
327	給排水衛生設備	給水引込管の管径算定	様式 機-102	分岐後 の下の□内 給水引込管 上水引込分岐点水圧 配管許容摩擦抵抗 (2か所)	<u>156.9</u> <u>12.33</u>	<u>161.7</u> <u>12.97</u>
				分岐後 真ん中の□内 給水引込管 上水引込分岐点水圧 配管許容摩擦抵抗 (2か所)	<u>156.9</u> <u>8.78</u>	<u>161.7</u> <u>9.1</u>
				真ん中の太□内の数値 下の太□内の数値	交点より <u>1.6</u> m/sとした。 交点より <u>1.45</u> m/sとした。	交点より <u>1.5</u> m/sとした。 交点より <u>1.35</u> m/sとした。
				最下行の式(上水引込分岐点の水圧 P1)	$P1[kPa]=150+9.813 \times \underline{3}-0.5 \times (30+15) =$ <u>156.93</u> \approx <u>156.9</u>	$P1[kPa]=150+9.813 \times \underline{4}-0.5 \times (30+15) =$ <u>161.7</u>
329	給排水衛生設備	タンク・揚水ポン プ・揚水管	様式 機-103	タンク類の行の項目	貯蔵時間	貯水時間
330	給排水衛生設備	タンク・揚水ポン プ・揚水管	様式 機-103	タンク類の行の項目	貯蔵時間	貯水時間
343	給排水衛生設備	給水引込管の管径算定	様式 機-102	分岐後 の下の□内 給水引込管 上水引込分岐点水圧 配管許容摩擦抵抗 (2か所)	<u>154.6</u> <u>12.02</u>	<u>159.5</u> <u>12.68</u>
				分岐後 真ん中の□内 給水引込管 上水引込分岐点水圧 配管許容摩擦抵抗 (2か所)	<u>154.6</u> <u>8.62</u>	<u>159.5</u> <u>8.95</u>
				最下行の式(上水引込分岐点の水圧 P1)	$P1[kPa]=150+9.813 \times \underline{3}-0.55 \times (30+15) =$ <u>154.68</u> \approx <u>154.6</u>	$P1[kPa]=150+9.813 \times \underline{4}-0.55 \times (30+15) =$ <u>159.49</u> \approx <u>159.5</u>
344	給排水衛生設備	タンク・給水ポン プユニット	様式 機-104	タンクの行の項目	貯蔵時間	貯水時間
				給水量の受水タンク出口給水管同時使 用流量の値	<u>245</u>	<u>246</u>
345	給排水衛生設備	タンク・給水ポン プユニット	様式 機-104	タンクの行の項目	貯蔵時間	貯水時間
357	給排水衛生設備	31 局所給湯の算定方 法	—	設計条件1. (1) 算出方法の解説1. (2) 計2か所	瞬間式湯沸器	瞬間湯沸器
366	給排水衛生設備	貯湯タンク	様式 機-113-3	時間最大予想給湯量 Q_{hm} の計算式	$Q_{hm}=q_B/T \cdot (45-t_c)/(t_h-t_c) +$ $(q_1+q_2) \cdot N \cdot \underline{(1-T)} \cdot (60-t_c)/(t_h-t_c)$	$Q_{hm}=q_B/T \cdot (45-t_c)/(t_h-t_c) +$ $(q_1+q_2) \cdot N \cdot (60-t_c)/(t_h-t_c)$
377	給排水衛生設備	阻集器	様式 機-122-1	流入流量の計算式及び備考	$Q=A \cdot \underline{w}_m \cdot n/n_o \cdot 1/t \cdot k$ \underline{w}_m : 食堂全面積 $1 \text{ m}^2 \sim$ 備考 $\underline{w}_m=90$	$Q=A \cdot \underline{W}_m \cdot n/n_o \cdot 1/t \cdot k$ \underline{W}_m : 食堂全面積 $1 \text{ m}^2 \sim$ 備考 $\underline{W}_m=90$

頁	設備	表題	書式番号	訂正箇所	誤	正
397	給排水衛生設備	液化石油ガス設備	配管系統図	瞬間湯沸器と一口テーブルコンロの台数	(瞬間湯沸器 5号 10.5 k W 一口テーブルコンロ 3.6 k W) ×2 (瞬間湯沸器 5号 10.5 k W 一口テーブルコンロ 3.6 k W) ×3	瞬間湯沸器 5号 10.5 k W 一口テーブルコンロ 3.6 k W 瞬間湯沸器 5号 10.5 k W 一口テーブルコンロ 3.6 k W
398	給排水衛生設備	液化石油ガス設備	様式 機-141	D～E 最大ガス消費量Q	<u>6.9</u>	<u>10.5</u>
				配管の継手類の相当長の欄に記載の吹出し部の文書	呼び径15A= <u>1/28</u> より選定した。	呼び径15A= <u>1/2B</u> より選定した。